



麻疹（はしか）



麻疹（はしか）とは

麻疹ウイルスの飛沫感染によって起こる感染力の強い病気です。肺炎や脳: 起こし重症になることがあります。我が国では現在でも年間数千人の患者が発生して、約10 数名の人が亡くなっています。

症状

はしかは10～12日の潜伏期間の後、発病すると38以上の熱が3～4日続き、咳・鼻水・目やになどの風邪症状を伴います。この後、いったん熱が下がった後再び39～40の高熱になり、同時に全身にはしか特有の赤い発疹が現れてきます。その頃には頬の内側の粘膜にコプリック斑という白い細かいブツブツがみられるときもあります。発疹が出てから3日くらい熱が続き、咳もひどくこのころが峠と言えます。口の中も荒れるので食欲もなく、脱水症で点滴が必要な場合もあります。2度目の発熱から4～5日たつと熱も下がり、食欲も回復しますが、これ以上熱が続く場合には肺炎や中耳炎などの合併症が疑われます。まれに脳炎（症状としては持続性の発熱、痙攣、意識障害）が約2,000～3,000人に1人の割合で起こり、その死亡率は15%にもなるので非常に危険です。その頃になると次第に赤かった発疹が黒ずんできて茶褐色の色素沈着が残ります。熱が下がって3日以上経つと登園・登校で けるようになります。

治療

はしかはウイルスで起こる病気なので、症状に合わせた治療が中心となります。今のところ、はしか自体を治す特效薬はありません。

生活

はじめに咳や鼻水があり発疹のでる前の方が感染力があります。感染を広げることになりますのではしかが疑わしいときの外出は避けましょう。家では安静が第一で熱が下がって3日以上経つまでは外出は控えましょう。汚れやすいところは、タオルで拭くなどして清潔に保ちましょう。解熱したら入浴してかまいません。熱のある時は普通の風邪の時の注意と同じです。又、治ってから1ヶ月は体の抵抗力が弱っているので別の病気をもらわないように注意しましょう。

予防

はしかを防ぐには予防接種が一番です。現在のはしかのワクチンは高度に弱毒された生ワクチンで、副反応が低く通常は1回の接種で長期間感染を防ぐことが出来る優秀なワクチンです。しかし頻度は高くありませんが、ワクチン接種により得た抗体が減少したため、流行時にはしかに感染する例もあります。1才過ぎたらなるべく早目に予防接種を受けましょう。ただし卵アレルギーのお子さんは接種時期や方法に注意が必要です。医師に相談して下さい。